

# 陽気だより

養徳社 検索

ホームページからご覧いただけます  
No.17 2008.8.15

## 第二号から

『陽気』は、昭和24年5月の創刊、平成21年に60年を迎えます。その足跡の一端を、昔の記事から振り返っていきます。

座談会

### 男は無邪気で愛すべき 奥様はかく語る

〔陽気だより〕14の続編

記者 それでは、あまり笑いすぎたから、少し真面目な話をしましょう。夫婦の間にお姑さんが入ると事情がかわってきますね。若夫婦二人きりの生活は、初めのうちは良いが、どちらも我がままが出て、結局うまくゆかないという説と、お姑さんがあつては、どうしてもしくり行かないという説とがありますか、どうお考えになりますか。

C 私は、差し向かいの暮らしよりは、舅姑のある方が良いと思います。なんといわれてもたった一人の主人の大切な親なんですから、私は、両親も兄弟もある方がかえって幸せと思ひ、人にも縁づくならば、皆さんが揃っている家にゆきなさいとおすすめています。私などは、特別に幸せだったのでしようか。姑はとても私を可愛がつてくれましたので、主人は、俺は養

子みたいだ」と言つて笑つていました。  
記者 しかし、両親が揃つている場合はいいが、お姑さん一人になると、やりにくいのではありませんか。  
C そうですね。お姑さんが一人になつてからは、私も主人と二人で出かけるのはつとめて避けて、大抵、姑と二人で出ました。今日はもう行きたくないから」と言われますと、主人と二人で出ましたけど……。



記者 そういう時は、嬉しいでしょう。(笑声)  
C まず両親、それから兄弟、自分のことは最後でよいと、最初に主人から申し渡された

のです。主人からそのように言われれば言われるほど、主人にも勤めたくなりますし、実際また、どのように無理をしても勤めました。  
記者 無理と申しますと?  
C 寝る時間を割きさえすれば、出来ることですわ。  
記者 二人きりの生活をうらやましいと思われませんか。  
C いつでしたか、新婚の映画を見まして、一緒に行つたお友達に、若夫婦なんてあんなことしているの?と聞きますと、一列小路(天理教本部裏の住宅)に行くときなあれや」というんですよ。しかし、教会生活には、そういうものはありません。楽しさと言えば、二人で布教したころの思い出くらいでしょうか。  
A 一列小路というところは、差し向かいの御夫婦ばかりですけれど、皆さん、とても円満にやつていらつしゃいますよ。お姑さんがいないから、だめになつたという例もありませんし。(以下略)

出席者 増田千代子・小松原千枝・宮内つなゑ・津川やすは・楠原知恵子・松山和子(敬称略)

## わが家のお道料理

### 鳥賊(いか)とうどの酢のもの

材料 五人前、鳥賊二匹、うど一本。三杯酢適當の分量(これはアサリでも平貝でも結構)

準備 鳥賊はわたを出してひらいたものを二つに切り、それを短冊型に切ります。(うども同じように)

調理 材料を配合よく小井に盛り三杯酢を横から注ぎ入れます。

### 二色刺身

材料 五人前、鮪百匁(三七五グラム)、鯖一尾、うど半本、わさび半本、醤油(平貝、鳥賊など好みのもので結構)

準備 鮪は作取して小口より厚目に重ね作りしておき、鯖は三枚におろし、骨を鋤き取り両面に塩をふり暫くおき、塩が水になり流れるころ酢に約十五分ほど浸して、中央の血合のところの小骨を毛抜きにて丁寧(ちやうど)に身を荒らさぬよう注意しつつ抜き、重ね作りしておき、うどは糸のように細く切り水にさらしておきます。

調理 皿にうどを盛り鮪を置き、その前に鯖を盛りそえ、山葵(わさび)をつけます。別猪口に醤油有りましたら味の素を混ぜ合わせたものを入れて添えます。

(中澤かほる)

# 原稿募集 読者が作る本

あなただけの“とっておきの話”をお寄せください

ふと思いつくたびに心に小さな灯がともるような話。題材は自由です。温かい、小さな灯を読む人の心にも映してほしいのです。

応募資格 ようぼく

応募規定 字数は800字以上1500字以内、ほか。

採用作品は平成21年、『陽気』創刊60年の年に単行本として刊行の予定。締切り 平成20年12月31日

※詳細は、「陽気」9月号の73Pをご覧ください。

## 教祖の御姿を偲ぶ

北村嘉一郎さん(庄屋敷村・中山家の南東に家があった)の末子、三島の上島かつさんが数え七十八歳のときの話。昭和二十七年に筆者は話を聞いています。(「教祖の御姿を偲ぶ 改訂新版」上村福太郎著より)

「……甘露水の話をしていただきますよ。昔は時計がなかったので、昼寝をして起きたら七つ起きとか八つ起きとか申しました。教祖は、仲田のさよみさん(儀三郎先生、明治十九年六月二十二日お出直)や、辻忠

## 「陽気」の仲間を探してください!

「陽気」は来年、創刊60年を迎えます! 天理教の信仰を胸に、同じ「陽気」の名で売れている、地域のみなさんに親しまれている、そんな「お店」や「会社」を知りませんか? “そう言えば”と思われるみなさま、ご一報ください。電話0743 (62) 4503 FAX0743 (63) 8077 どうぞ、よろしくお願ひします。(ハガキも可)

## 「陽気」読者講演会

### 家族が一番の抗がん剤

5年前、胃がんで胃を全摘した氏が、信仰を通して得た生きる勇気を語る。

高杣禎彦 (ようぼく・俳優 元チェッカーズ)

10月25日(土) 午後2時より  
陽気ホール(おやさとやかた 南右第二棟四階)

が、お屋敷に持って帰ってしまわれたあと、それらの椿やかんちく竹にキラキラ残っておりました。私たちはみんなでなめました。それは甘い何とも言えないおいしいものでした」



話の種に困ったら……

本社発行

心のサポート(しあわせの種まき)

榮嶋憲和著(三輪分教会前会長)

630円(税込)

身近な話題の奥にギュッと詰まったお道の教えが、読むたびに滲み出てくる。そんな短文の数々が心をほぐし、温かくし、うなずかせます。

二ページ一話。大きな活字で読みやすく、老若男女、未信の人にもおススメです!

※おちばの各書店か、直接当社へご注文ください。まとめてご購入いただくとお得です。ご連絡を。

(☎0743・62・4503)

## 養徳社 よもやま話

○六月末、こどもおちばがえりのフロートに付ける風船を膨らませるひのきしんをした。十センチほどに膨らませるのだが、エアークンプレッサーで入れるので、つい膨らみすぎて爆発! 大切な風船を何個も割ってしまいました。ゴメンナサイ……。

○先日、本部北礼拝場に入ると、おつとめをする女性の黒いTシャツの背中に白抜きで「さあ、これからや」と毛筆書きされているのを発見! 昨年十一月に出た当社の本の題字に似ている。取材を、と思いながらついついおつとめをしてしまい、見逃しました。ご存知の方、ご一報を!

## 広告を載せませんか

ようぼくの企業や会社の広告を『陽気』誌へ載せてみませんか? 掲載料金は、広告の大きさによって異なります。料金は、記事中で一回二万円から。

詳しくは養徳社広告係まで  
☎0743・62・4503

この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用いただけますよう、お願い申し上げます。

養徳社